



(1) 「捨象」 というのは、交換関係 a と b を用いて両面から捨象された c 。 $A, B \rightarrow c$ 。 $X \text{ として } a \text{ と } b \text{ があることを示す}$ 。

(2) 形態に於いては使用両面に捨象を置いて、吊钩生产物 a 吊钩も抽象的人間関係化可能 (置ける)。 \rightarrow 以て、
「实体」の領域に於て。

(3) 商品体から使用両面を「店外視」すると、吊钩生产物という属性が残る、という事は、認識を拒く。 \rightarrow 此は、捨象論に於ては、吊钩生产物一般という属性があるか。(赤、黄、青... と捨象すると、「色」という属性が残る?)
 \rightarrow 此は、商品体は \rightarrow 吊钩生产物である。と素直に言える可い。 \rightarrow 亦、亦、亦、交換関係を通じて、吊钩生产物を生み出す吊钩に、抽象的人間関係という性質が派生する。 \rightarrow 是。